北海道・函館出身で、現在は倶知安町在住の画家・本庄隆志は、青年の頃、自らの強い意志で画家への道を切り拓き、以来、深く内面に向き合うことから生み出される豊かなイメージを、練られた構図により丁寧に描き出す作品を制作し続けています。本展では、心象と響き合うモチーフを無作為に組み合わせ、新鮮なイメージを生成するコラージュの手法を探求した1980 ～90年代の作品に加え、繊細な感覚で周囲の自然をリズミカルに捉えた新展開の近作まで、本庄作品の代表作の数々をご紹介します。札幌、函館と活動の場を移し、そして倶知安にアトリエを構えて10数年、地域の美術ファンにはなじみ深い作家となっている本庄隆志。その時々の風景と心象を重ね合わせ、紡ぎ出される絵画世界をご覧ください。

本庄隆志　略歴

HONJO, Takashi

1950　北海道函館市（旧・戸井町）生れ
1975　北海道教育大学札幌分校特設美術課程卒業
1976　北海道教育大学札幌分校教育専攻科修了
倶知安町在住

《公募展・団体展・受賞》
1988　北海道美術協会（以下、道展）　会友
1989　道展会友賞受賞
1990　道展　会員
1997　札幌美術展（札幌市民ギャラリー、～'99）
2009　第51回麓彩会展（小川原脩記念美術館、以後毎回出品）
　　くっちゃんART2009（小川原脩記念美術館、～'17）
2018　坂東宏哉・本庄隆志・八重樫眞一3人展（札幌・茶廊法邑）

《個展》
1999　本庄隆志個展（札幌時計台ギャラリー）
2005　本庄隆志展（札幌時計台ギャラリー）
2012　本庄隆志展（札幌時計台ギャラリー）
2013　本庄隆志展「いのちをえがく」（ギャラリー山の手）
2014　本庄隆志展「こころの風景」（札幌時計台ギャラリー）

本庄隆志展　作品リスト

制作年／技法・素材／サイズ（cm）額寸／所蔵

自画像			
1975年	油彩・キャンバス	530×45.5	作者蔵
石化			
1987年	アクリル・キャンバス	130.3×162.0	作者蔵
風化			
1989年	アクリル・キャンバス	162.0×130.3	作者蔵
空寂			
1996年	アクリル・板	162.0×130.3	作者蔵
風涛			
1997年	アクリル・キャンバス	162.0×130.3	作者蔵
標像			
2002年	アクリル・キャンバス	162.0×162.0	作者蔵
標像04			
2005年	アクリル・板	91.0×116.7	作者蔵
生成と消滅			
2007年	アクリル・キャンバス	130.3×162.0	作者蔵
標'08			
2008年	アクリル・油彩・キャンバス	162.0×162.0	作者蔵
Signpost'09			
2009年	アクリル・キャンバス	162.0×162.0	作者蔵
暁光			
2011年	アクリル・板	111.0×135.0	作者蔵
午後の浜茄子			
2011年	アクリル・キャンバス	60.0×60.0	本庄英雄氏蔵
輝ける大地			
2012年	アクリル・油彩・キャンバス	162.0×130.3	作者蔵
浅春　倶知安峠			
2012年	アクリル・キャンバス	91.0×116.7	作者蔵
山麓風景			
2012年頃	アクリル・板	72.7×182.0	作者蔵
大地・夏			
2013年	アクリル・キャンバス	194.0×162.0	作者蔵
Origin			
2014年	アクリル・板	91.0×116.7	作者蔵
大地のポリフォニー			
2016年	アクリル・キャンバス	130.3×162.0	作者蔵
星々の庭			
2017年	アクリル・キャンバス	162.0×130.3	作者蔵
冬のシンフォニー			
2018年	アクリル・板	162.0×162.0	作者蔵
冬のシンフォニー・街			
2019年	アクリル・インク・板	162.0×130.3	作者蔵
空を泳ぐ			
2019年	アクリル・ガーゼ・板	24.0×33.0	作者蔵
錦秋の森			
2020年	アクリル・板	97.5×130.3	作者蔵

冬のシンフォニー　2018年

本庄隆志展

イメージのコラージュ

HONJO TAKASHI EXHIBITION　COLLAGE OF IMAGES

2021. 2.13. Sat - 4.18. Sun

小川原脩記念美術館
Shu Ogawara Museum of Art

本庄隆志展　イメージのコラージュ

HONJO TAKASHI EXHIBITION　COLLAGE OF IMAGE

会　　期：2021年2月13日(土)～4月18日(日)
開館時間：9：00 ～ 17：00（入館は16：30まで）
休 館 日：毎週火曜日（ただし2月23日(火祝)は開館、翌24日(水)が休館）
観 覧 料：一般500(400)円、高校生300(200)円、小中学生100(50)円
　　（　）内は10人以上の団体料金

小川原脩記念美術館
Shu Ogawara Museum of Art

〒044-0006　北海道虻田郡倶知安町北6条東7丁目1(0136-21-4141)
http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/

作者のことば

わたしは「今まで何を表現してきたか、これからどこに向かうのか」という問いを、自らの造形思考に重ねてみました。大学の専攻で油彩を描き始めた20代の初めころから後年まで、象徴的な作風が中心でした。作品の制作し始めは大まかな構想を糸口に、下地となるいくつかの色を大きなタッチやストロークで描きだします。無作為な筆の動きや偶然できるマチエールなどでイメージを発酵させ醸成させます。性質の違う形を組み合わせて集める、シュールリアリズムの画家が好んだコラージュのように形と形が出会い発生する散文的な、あるいは哲学的な発想を伴った主題が浮かび上がってきます。長い期間にわたってこの様なスタイルで制作を続けてきました。

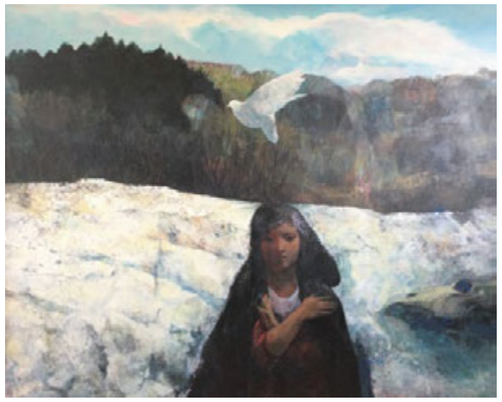
14年前に憧れの地であった倶知安に移住して、少しずつモチーフや制作スタイルが変化してきました。この地の風景は羊蹄山やニセコアンヌプリなどの美しい山容だけにはとどまりません。目には見えない堆積された時間と開拓された人の営みが、現在の目に映える風景を形作っているのではないでしょうか。最近のモチーフは倶知安の風景や自然の中での生活の痕跡が作り出した形を抽象化し、土、酸化鉄、火山灰を顔料やマチエールとして使うなどの新しい仕事に向かっています。

本庄 隆志

輝ける大地　2012年

浅春　倶知安峠　2012年

暁光　2011年



石化　1987年

Origin　2014年

風湧　1997年

生成と消滅　2007年

星々の庭　2017年

大地のポリフォニー　2016年